

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字池尻887-1		
自己評価作成日	平成25年6月14日	評価結果確定日	平成25年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から10年が経過し、利用者にとって本当に穏やかに暮らしやすく快適な生活をおくることができる家庭的な施設運営を目指して参りました。大きなトラブルもなくようやく初期の目標が達成できたと実感しております。今後は地域との関わりあいをさらに緊密にし、地域社会の一角としての施設の実在感を高め、認知症介護の中核としての使命を全うできるように、認知症介護の専門性をさらに追及し、介護人材の育成に係る諸制度の整備に着手し、障害者や児童福祉との連携を模索するなど、新たな課題へのチャレンジを行って参りたいと思っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年6月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初からの入居者が心疾患で入院し、筋力や認知力の低下が顕著になり、緊急の事態も予測され、家族と十分な話し合いを行っている。運営者や管理者は馴染みの関係や環境の重要性を理解し、家族の希望もあり、ホームでの生活が継続できるように支援している。寝食分離を目標に、座位を保持するために訪問マッサージやストレッチを支援したり、他の入居者と一緒の食卓での食事を支援している。そして、恒例の近隣小学校との七夕交流会は、着々と準備が進められ、このような取組みや、運営者の地域行事に率先して協力するなどの地道な努力で、地域の信頼も篤く、近隣からの入居者が多い。また、職員の育成に配慮し、理念に添ったケア目標を毎朝唱和しながら、OJTで日々の取組みの中で入居者の尊厳やその人らしさについて、運営者や担当者が指導している。今後も理念の具現化に向けた取組みが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス池尻**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創業以来の運営理念を掲げ、毎朝呼称することにより、職員への周知を実現している。また、研修やミーティングの際には理念に沿った行動が取れているか、を確認している。	運営理念に沿ったケア目標を、朝礼で唱和している。管理者は職員に対して、入居者にその人らしい生活を送ってもらえるように、自立を目標とした支援を周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政区や隣組との付き合いを生かして、自然に地域と交流できるように取り組んでいる。区の行事や会合には積極的に参加している。	近隣小学校との七夕交流会は、今年も事前打ち合わせで学校に出向いたり、小学生の訪問を受けたりしている。このような取組みで、ホーム状況や職員の仕事の理解がすすみつつある。以前交流した小学生が中学生になって訪問してくれ、管理者は感涙に咽んでいる。ホームで入居者と一緒に神幸祭を接待し、祭りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒予防教室では、役場の保健師の講義に合わせて、高齢者の体動の特性について事例を述べることもあり、今後も認知症の特性等の発表の機会を伺い、参加したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された意見について、目標を定め、サービス向上に生かす努力をしている。	2ヶ月毎に、家族や地域区長、町担当者の出席で開催し、議事録を整備している。会議で避難訓練状況や消防署の指導について、報告し、理解や協力をお願いしている。また、家族が出席しやすい時間に合わせるなど、会議目的を理解した工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談が頻繁に行われており、行政からの要請や訪問も活発である。	居室の空き状況について、地域包括支援センターと情報を交換している。昨今、地域包括支援センターから、自宅で介護している家族が困っていると連絡を受け、管理者が自宅訪問後、入居に至っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束も含めた介護周辺の知識が浅い職員が多いため、日々のサービス提供の折や座学にて理解を深める実践を行っている。	身体拘束に関する説明書をパンフレットに綴じ込み、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は施錠していない。現在は外出傾向の入居者はいない。身体拘束の具体的内容について、機会ある毎に学習している。	職員の介護に従事した期間や経験のばらつきもあるので、外部研修の参加や日頃の事例を通じた学習会で、理解がさらに深まることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相互監視による報告を義務化し、密室介護にならないように細心の注意。情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での習熟チェックを行い、権利擁護の気持ちが浸透するようにしている。	家族会で、日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明している。現在まで、制度等の活用はない。パンフレットを整備している。研修会で職員の制度等の理解が進むように、学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で伝達するだけでなく、文書化し手交するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問される際の要望を傾聴し、責任者に必ず伝達される。また運営推進会議での要望は検討し報告している。	年3回家族の会を開催し、年度末の家族会は、6名の家族の参加があり、ホームの取り組み等を報告している。また、日頃から、来訪された家族に入居者の状況等を報告している。誕生会に当該入居者の家族を招待するなど、意見が伺い易い工夫をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で出された意見を検討・反映させるほか、日々の気づきを吸収する工夫をしている。	月1回職員会議を開いている。運営者から、「要望はないか」との問いかけもある。管理者はいつでも質問に応じ、職員の納得して仕事をしたい気持ちを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	信賞必罰を明確にし、働き甲斐のある職場作りを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は公平である。社会参加や自己実現の取り組みを今後充実させていきたい。	職安を通じた職員採用も多く、服務規程や就業規則に沿った就業である。資格の有無を問わず、福祉の精神等を理解できる「こころの資格」を重視している。深夜帯専従職員を置いているが、日勤帯で入居者の状況を把握してもらい、夜勤を2人で行うなどOJTを実践している。経験を深めることに配慮し、本人と相談しながら、系列のグループホームから異動して来た職員もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて、人権尊重教育をし、サービス提供に反映できているか、介護の場面での実践状況の把握に努めている。	電話の取次ぎ等のマナーについて、事務所内に掲示し、接遇の徹底に取り組んでいる。職員の言葉遣いも丁寧で、気づきがある時点で話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験の就業者も多く、研修はマニュアルを作成して習熟度の応じた取り組みを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会で知り合った施設や職員との交流が深化し、相互訪問や情報交換が行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して穏やかに過ごせる見通しが確立するまで、初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを通じて適切におこなっている。特に言いにくいことがないか、投げかけを大切にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスの利用が第一優先である、という認識の下で、ニーズの確認を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協力しながら、支えあいながら、ともに暮らす、という雰囲気が出てきている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始当初から、協力を要請し、家族の関与を引き出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援を得て、本人を意思を尊重している。	自宅の仏様にまいりたいとの願いを家族と話し合っ、実現を支援している。受診後、家族とうどんを食べることを楽しみにしていた入居者が、寄らなくなったことが淋しいと漏らし、担当者が家族に言葉を選びながら、伝えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独に陥らないように、共同レクリエーションや作業を通じて、さりげない支援を継続している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折々訪問するなど、安否の確保に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じて適切におこなっている。特に言いにくいことがないか、投げかけを大切にしている。	職員は日々入居者と関わりながら「問題拾い出しノート」を記載し、日々の思いや意向の把握に努めている。ノートには入居者の言動が記載され、職員にさらなる気づきを促している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前段階での情報の収集や、関係者からの聞き取りを通じて、本人本位に行われている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態や健康管理面の情報を適切に分析し、個々人に合わせた支援に繋げている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを適切に行い、モニタリングを通じて現状ニーズの把握を通じて、現状最適の計画を作成・実行している。	心疾患で入院し、筋力や認知力の低下が顕著になった入居者があり、家族の希望でホームでの生活を支援している。寝食分離を目標に、座位を保持するために訪問マッサージやストレッチを支援したり、他の入居者と一緒の食卓で食事を摂れるように支援している。	問題拾い出しノートや日々の個人記録をサービス提供状況のモニタリングとして活用しながら、全職員による介護計画の作成や見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有・計画の見直し、については、職員間の連携がとれており、適切に行われている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	場合によっては、外部サービスの利用を検討したり、アイデアや業務改善により、柔軟に取り組む姿勢がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や商店街等の催事の活用など、積極的に取り組みされている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力のもと、希望の医療機関への受診が行われている。	かかりつけ医の定期的な往診がある。専門機関への受診は家族の協力で実施されている。かかりつけ医との連携を密にして、排便や水分管理がなされ、服薬管理も複数の職員によるチェックを実施している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の把握は、日々の観察の中、カンファレンスの際、ともに情報の共有を行い、適切に医療機関に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けての取り組み、また、入院中のメンタルケアなど、豊富に取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時での希望を元に、状態変化時において、ご家族・本人の希望を踏まえた方針を示すことにしている。	心疾患が悪化し、緊急の状況が予測される入居者があり、ホームの対応指針に沿って家族と十分な話し合いを行っている。家族に連絡できない場合は緊急時の判断をホームでお願いしたいとの家族の意向もあり、同意書を取り交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、定期的に見定めを行い、適切に実践できるよう、準備している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政区の避難場所への誘導の際、住民の方への協力を要請している。	消防署の指導を受けながら、避難訓練を実施している。消防署から初期消火の実施や避難の有無を確認するために、居室の戸を閉めるように指導を受け、運営推進会議で報告している。備蓄台帳は未整備である。	昨今の自然災害の状況から、備蓄の検討や備蓄台帳の整備を期待します。また、消防署の指導を活かした避難訓練の実施をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いによる軽口等を指導し、現在は人権教育の成果ができてきている。	入居者に対する言葉かけは穏やかで丁寧である。職員間の声かけも丁寧で日頃の対応が伺える。管理者は、このホームを認知症高齢者と家族が暮らす場所として、いつでもだれでもが入居者に平等に対応できるようにと職員に話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの調査を行ったり、今日の食べたいものに合わせたメニュー変更等、柔軟に行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望の表出を見逃さず、さりげなく促すなど、希望を叶える努力を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択ができる場面が多くなっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自発的な行動を尊重しながら、食事に対する関わりを持たせる支援を行っている。	入居者の要望で今年は玄関前の花壇やフェンスにかぼちゃを植えたり、食べたい物を尋ねている。ウナギ、チャンポン、ソーメンが希望メニューに上がり、実現する予定である。昼食では煮豆が美味しいことが話題となり、入居者はそれぞれのペースで食事をしている。職員も同じ食事を摂りながら、見守りや食事介助をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランス、摂取量の把握を通じて、随時に医師とも相談しながら行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として、自発的にケアができています。歯科医の支援も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活支援の中の重要な活動と捉え、支援促進を積極的に行っている。	視覚障害のある入居者に、便座にきちんと座れるように声かけをしている。職員の頻回な声かけで、入居者が後始末を意識するようになり、「便器を汚していないかどうか見てくれ」と職員に声かけをするようになった。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携の中で、主体的に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のパターンは職員が決めているが、本人の意思を尊重することができるような柔軟さを持たせている。	週3回、入浴を支援している。心疾患のある入居者はシャワー浴で対応している。体調不良と訴え、初めは入浴に拒否的な入居者もあるが、湯船に浸かると、「気持ち良い」と話すため、声かけ等を工夫しながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠への過程で、安らぎを持たせる支援を行って、安眠が確保できるよう、取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳により、用法や副作用などは把握できている。医師との連携により、適切な支援ができている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格を活かした支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と相談をしながら、行きたいところへの外出を実現している。	集団アクティビティに参加しない入居者はホーム周囲の散歩を手引きや車椅子と様々な体制で実施している。3ヶ月毎に地域の温泉に出かけているが、お馴染みさんになり業者の理解や協力を得るまでになっている。職員は入浴時のマナーを徹底し、他の温泉利用者への配慮をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持することはないが、施設の買い物時などで、利用者が支払い、計算することは支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	折々の時候の挨拶等を、文通にて支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せるよう、利用者と工夫して、行っている。	玄関横の花壇には入居者の希望で朝顔やかぼちゃが植えられ、居間の窓は今年は朝顔の花のカーテンにしている。庭に植えられたびわの木からの収穫を全員で味わったり、番犬はお馴染みさんかどうか分る吠え方で、家庭的な環境である。トイレや浴室は入居者が分かりやすいように、大きく表示されている。共用空間は大型テレビが間仕切り代わりに、食堂と居間を仕切り、寛ぎやすい空間を作っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カーテンや家具での仕切り、庭の四阿での会話の場面など、過ごし方を演出している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ち込んでもらっており、居室の工夫はご家族とともに、行っている。	入り口に大きく入居者名が掲示された居室が多い。ベットはホームの備え付けであるが、自宅から持参したテーブルや椅子、洋服かけが置かれた居室もある。誕生日を祝うステッカーが大きく掲示された居室もあり、職員の配慮が伺える。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は見守りに徹し、利用者の自立を支援している。		